

馬渡の眼 5 「名前」

馬渡 徳子

今年の母の日に、社会人になって初めての「手作りのプレゼント」を母と義母に贈った。 ※写真

コロナ禍にて、お花のお稽古(フラワーアレンジメントと、ハーバリウム)が叶わなくなり、我流で続けてはいるが、やはり、先生と生徒同士での交流しながらの方が楽しいので、再開が待ち遠しい。

そんな時に、友人から「草木染めと織物」に誘われた。講師の先生とは、以前から仕事面でもお付き合いがあったので、「それはもう是非是非!」という感じで、4月より開始した。

そのプロセスは、正に、化学だ。先生による調合が終わり、染めの時間帯は、温度調整をしながら、大きなスープ鍋をずっとむらなくかき混ぜるのだが、魔女になった気分、愉快だ。

乾燥の時間帯には、羊毛を解し、手繰

り寄せたりといった作業も手伝わせていただく。

その傍らで、三台の織機がトントンと音を奏でていて、何とも心地よい。

さて、記念すべき第一作目は、何にしよう!と考えたところ、丁度一カ月目に母の日があり、2人に共通しているのが、①ショール好き、②茜色と藤色が好き、ということ。そこで、茜色と藤色のショールと、お揃いのマスクを、染めることにした。

なかなかの出来で、自分を褒めてあげたい。(笑) 第二作目は、古着屋で300円で購入したカシュクールワンピースを、自分の丈にリフォームしたものの、ちょっと色が気に入らないので、アースカラーに染めるつもりだ。

さて、そろそろ、話を本題に戻そう。今回のタイトルは、「名前」だ。実は、この習い事に誘ってくれた友人のお一人は、

友人の友人で、私にとっては新しい友だちとなったのだが、「姓名占い」がお出来になる方だと、知るところとなる。その方が、「悪天候時の車送迎の御礼に、占っても良いですか?」と訊ねて下さり、私の名前を占って下さった。

すると、それは、「とても嬉しい、今後の励みとなる内容」だった。

私の名前の「徳子」は、初対面の方にはめったに「ノリコ」とは、読んで頂けない。大概が、「トクコ」だ。「いえ、ノリコです」と、訂正することが多々あるので、名札や名刺には、必ずフリガナを付けてきた。(笑)

子どもの頃の学校の宿題で、「名前の由来」を聞いてくることがあり、その際に、母があっさりと、「それはね。平家の流れじゃけえ、『建礼門院徳子様』にちなんで、この家に最初に生まれた子どもには、代々、男女構わず『徳』をつける決まりがあるの。ほら、観てみ!」と仏間に飾ってある先祖代々の写真の名前を指さした。確かに!「えっ。お父さんとお母さんとで、付けたんでないの?」と聞き返すと、「本家という所は、そういう『しきたり』なの。脈々とね。平家の流れかどうかは、

本当のところは知らんよ。(笑)」と無表情に、パスっと話を切られてしまった。

そんなやり取りがあったことを、今も記憶している。

宿題発表の日に、意外と「平家の流れ」と、自分の苗字や名前との関連性を発表した友だちが居たことも、覚えている。

事実、「源氏に追われた平家が、海から逃げてきて、松に衣を掛けて干した。村人たちが農民の衣を渡し、かくまい、逃亡か定住を助けた」という謂れのある『衣かけ松』が、文化財として現存し、町名の「装束」の由来となっていて、小学校校歌の文脈にも入っている。

そこで、今年の母の日のお手紙には、「お母さん、私に素敵な名前を、ありがとう。占いができる新しい友だちに、『とても素敵な名前』と褒めて貰い、もう、鼻高々!。お母さんの名前もね、『生涯を通して、弱い立場の人々を、温かく支える、心美しい非凡な人』だって。当たってるね。お母さんの人生そのものや。自慢やわ。」と、書いた。

すると、母から、「プレゼント届いたよ。今までもらったもので、一番嬉しかった。



あの色、庭に丹精込めて育てていた薔薇のアーチと藤棚を、覚えててくれたんやね。定年を迎えた時のお手紙は、感慨深かった。今回のお手紙は、本当に嬉しかった。今までの苦労が報われた気がした。私がこの名前を付けてもらった時に、『困った人々に尽くしなさい』という願いがこもったんやね。なるほど、うっかりしとれんね。」と電話があった。

続けて、

「本当の事言うとね。長男の嫁だから、産後に実家に帰ることも叶わず、産院から直帰したら、もう、既に、おじいちゃんが、仏間に『命名 徳子』と書いて飾ってあった。お父さんは、その頃はもう、ずっと外国に居たしね。異を唱える余地なし。お父さんと相談していた名前もあったんよ、宝塚俳優みたいなハイカラな名前。ちょっと腹も立ったけど、おじいちゃん、本当にええ人じゃったけえ、言えんだわ。いろんなことがあったけど、お父さんの代わりに、よく私の味方をしてくれたしね。何より、家事が楽になるように、町で最初に三種の神器(テレビ、洗濯機、冷蔵庫)も買ってきてくれた。炊飯器はガスやったね。掃除機も、早かったよ。カラーテレビも。

・・・じゃけど、読み間違えられることが多かったじゃろうし、画数も多いし、申し訳なかったね。

・・・じゃが、ほんまに良かったね。おじいちゃんもおばあちゃんも、お父さんも、天国で笑うとるわ。こんなこと言うてくれるお友だち、大事にせんなんよ。」という、告白があった。

別荘で暮らす義母からも、ソーシャルワーカーさんの計らいで、オンライン通話ができた。

「大阪に居た頃のお父さんのこさえた藤棚を思い出した。覚えていてくれて、ありがとね。大事にするね。これまでのプレゼントの中で、とびきりの一番。」とのことだった。

ちなみに、私は、「得られた知識を人々に知らしめる天命を持ち、それは祈りに似た行為になります。地に足が着いた堅実な実績が、世の中の光になります。」とあった。

→ 生涯を通して、謙虚に学びを継続し、つながりをつくり、つないでいきましょう。ということ。

全国の『徳子』さん、
ともに、ファイトです!